



債券運用 含み損26億円の現状は

河合 克平議員

額面126億円、含み損は35億円

会計室室長補佐

残期間含み損状況		令和7年7月末	令和7年1月末
全期間 合計	額面残高	126億円	129億円
	損失	35億円	26億円
満期まで 5年末満	額面残高	4億円	6億円
	損失	81万円	180万円
満期まで 5-9年	額面残高	8億円	6億円
	損失	4500万円	3000万円
満期まで 10-19年	額面残高	42億円	45億円
	損失	7億2100万円	5億6000万円
満期まで 20-29年	額面残高	59億円	59億円
	損失	21億2000万円	16億円
満期まで 30-39年	額面残高	13億円	13億円
	損失	6億円	4億4000万円

▲残期間別額面残高と含み損

問 証券会社ごとの金額

問 債券運用の1月の含み損は26億円だった。6カ月間経過して、7月末の基金の含み損の金額と基金の残高、内訳は。

答 合計は、債券が75本、額面126億円、含み損は約35億円。

令和7年7月末時点の基金総額は約171億円で、内訳は債券約125億円、普通預金約27億円、定期預金約19億円。

問 市長に報告なく運用されたという内部統制の問題についての考えは。

答 組織の統制・規律・情報共有として、債券の購入や売却等は、地方自治

は。

答 野村證券25億円、S M B C日興証券38億円、大和証券8億円、みずほ証券15億円、岡三証券26億円、東海東京証券9億円、三菱UFJモルガン・スタンレー証券5億円。

問 空調設備を小学校体育館へ早期に設置する考えは。

早急に小学校体育館に空調設置を

法に基づき財産を管理するとの認識の下、副市長の専決事項として決裁を行うが、重要度が高い事項として市長に報告している。

答 小学校体育館のエアコンの整備は計画してない。今後、整備していく上において、計画を立てる際には一体的か、優先順位を設けるのかについて、教育委員会で協議し、進めていく。



永和中体育館の雨漏



夏の佐屋中体育館の気温

▲中学校体育館の状況